

上野中だより

上野村立上野中学校 学校通信
第 21 号(文責:校長 五十嵐貴子)
令和 6 年 3 月 6 日発行



3 月、急に雪の予報が多くなって、冷たい北風が吹く日もありますが、可憐な梅の花が満開です。花壇では、チューリップや水仙の芽が出て、背が伸びてきました。

「㊦最高の思い出をつくろう」の3月、生徒たちは、いつも通りに授業をし、給食を食べ、遊んだり委員会の仕事をしたり、バスケットをしたり歌ったり。3年生との時間を惜しみながら過ごし、3年生もまた、大切な時間を心に刻んでいるようです。朝、教室から「友～旅立ちの時～」の歌声が流れてきます。卒業式で歌います。私たちの最後の最高の思い出は卒業式。その日まで、上野中学校はお互いを思い、「ありがとう」でいっぱいの時を過ごします。

予餞会

～3年生、ありがとう～

4日(月)は、予餞会でした。1・2年生から3年生に感謝をこめて、「月曜日のダウンタウン」。いつの間に準備したかと思うビデオの数々。そういえばこのところ、学校内に㊦の空気が流れていました。3年生がとっても楽しそうに見入っていました！



3年生作
黒板アート
「二期一会」



3年生に感謝をこめて、色紙をプレゼントしました。



3年生からも、メッセージがありました。一人一人、自分の成長や感謝の思いを語ってくれました。今日の笑顔は、上野中学校で、本気で全力でみんなと頑張った「すべてをやり切った」安心と自信あふれる、最高の、美しい笑顔でした。

3月の思い

上野の里に、再び春が訪れようとしています。上野中学校の周りには、本当に豊かな自然があり、四季折々、たくさんの命を育み、メッセージを運んでくれます。この大自然の懷に抱かれて、心身を鍛え、仲間と一緒に真っすぐに豊かに成長していく子どもたちを見ていると、私も、人として、大人として、ともに学び、成長したいと思う春です。

2024 年の始まりは能登半島地震でした。早くも2カ月がたちますが、まだまだ被災地への支援と祈りは必要です。そして、3月といえば、今から13年前の2011年(平成23年)3月11日、東日本大震災が起こった日のことも思い出します。

豊かな自然は、時に厳しく非情な力で襲い掛かることがあります。到底あらがうことはできません。悩み苦しむ、途方に暮れる夜は、泣くだけ泣いて、弱音を吐いて、眠ってしまうこともあるでしょう。けれど、私たちは、知恵と勇気を持っています。命をいとおしむ愛があり、夢を持つことができます。困難を乗り越える強さを持っています。誰かと力を合わせれば、人は立ち上がり、挑戦し、前へと進んでいくことができると、私は思います。仲間を思う心、誰かを思う心を伝え合いたい。一人じゃないよ、と伝え合いたいと思います。

中学生の3年間の成長は、時間の分以上に大きく深く、そして強いものです。一人一人が本当によく頑張りました。夏の暑さと戦い、秋の憂いと向き合い、冬の厳しさに耐えて、大切なことを学びながら過ごし、「真」の力を身に付けました。何より、素敵な仲間が一緒にいるということを、今、感じていることでしょう。

上中生、頑張ったこの1年に胸を張り、これから先、どんな時も自分が持っている力を惜しみなく発揮できる、そんな人でいてほしいと願います。



受験は個人戦、だけど団体戦。
みんなで本当によく頑張った。
祝・3年生 新しい春のスタート
ラインにつきました！



校庭で

小野十三郎

わたしは
未来という言葉が好きだ
よく考えると
あなたたちの一人一人に
それがどんな意味を持つのか
なかなかふくざつで
かんたんには使えないけど
あなたたちとわかる日が近づくと
なぜか、さからいがたく
未来という そんな言葉が
心の中からとび出してくるのだ。
夢とか 倖せとかいう言葉では
いいつくせないものが
その未来という言葉にあるからだろう。
いまうす陽がさしている校庭には
だれもない
わずかに光をあつめて
冬薔薇だけが咲きのこっている。
いってみれば
未来とは
かすかに風にゆれる
この一輪の
白い花のようなものだ。
ゆく雲のかげさえそこにうつっていて
世界はかぎりなくしずかで
かぎりなく美しい。
しかしそこにあれば
この庭にみちあられていた
あなたたちのこえがきこえる。
わたしは
あなたたちのそばを
なんども通った
そんな日があったことを
忘れない。